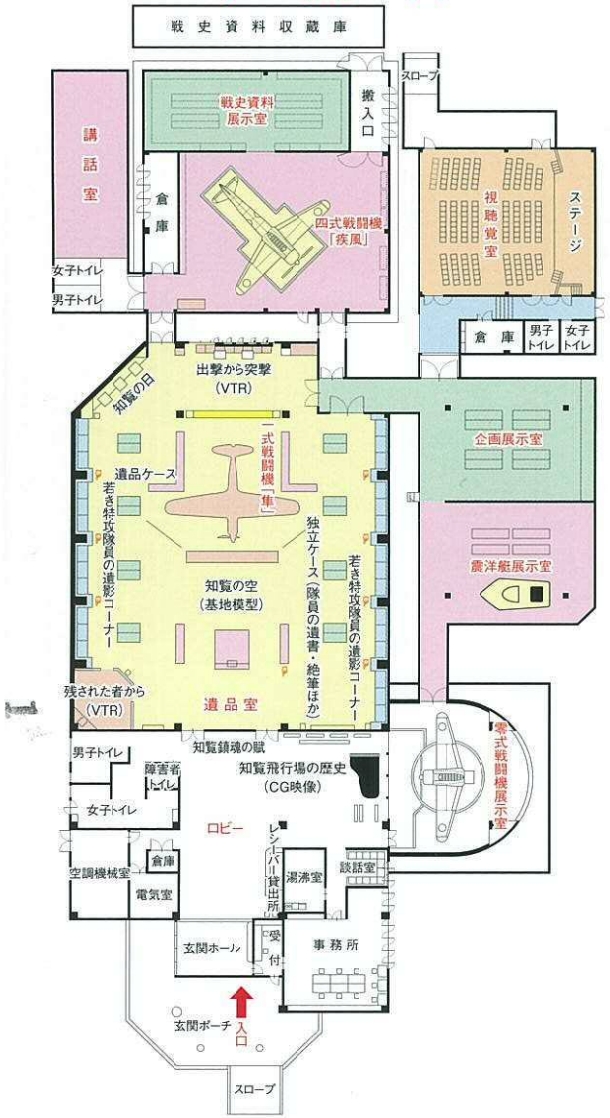
議題（１）

他館のコンセプト事例及びコンセプトに即した機能事例

（説明資料）

知覧特攻平和会館

平面図



静かなたたずまいをみせる「知覧武家屋敷群」

徳川幕府の天下統一が一国一城を厳守させることにあったため、薩摩藩では鶴丸城を内城とし、領内に一一三の外城を造り、防衛の役割を果たすことにしたが、その中の一つが知覧であります。現在の区割は十八代知覧領主島津久峯公の時代に造られたもので今から二三〇年～二五〇年前のものであります。一〇余りの庭園と武家屋敷通りが広範囲の風致区域として保存されているところは、全国的にもまれでテレビなどでもたびたび紹介されています。

薩摩の武士といえば武骨一辺の田舎武士としてのイメージをもつが、このような一面があったのかと訪れる観光客をおどろかせています。武家屋敷群は国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、地区内にある七庭園が「名勝」に指定されています。また、武家屋敷群との調和のとれた町並みは古風で落着きのある静かなたたずまいをかもし出し、鯉が遊泳するなど訪れる人びとの心にやすらぎをあたえています。

日本の道100選顕彰

交通のご案内

南九州市知覧町から
鹿児島市まで34km
指宿市まで37km

会館のご案内

●開館期間
1月1日から12月31日まで
ただし、都合により休館することがあります。

年中無休

●開館時間
午前9時から午後5時まで
ただし、入館は午後4時30分まで、又都合により開館時間を変更することがあります。

●入館料
個人●大人500円　小人300円
団体●大人400円　小人240円
団体（30人以上の団体及び修学旅行等1人につき）小人とは、小・中学生のみです。

知覧特攻平和会館
ミュージアム知覧　共通券
個人●大人600円　小人400円

知覧特攻平和会館

鹿児島県南九州市知覧町郡17881
〒897－0302　TEL0993（83）2525　FAX0993（83）4859
ホームページ　http://www.chiran-tokkou.jp/

知覧特攻平和会館

鹿児島県
南九州市

世界恒久平和を願いながら…

この知覧特攻平和会館は、第二次世界大戦末期の沖縄戦で、人類史上類のない爆装した飛行機もろとも敵艦に体当りした陸軍特別攻撃隊員の遺影、遺品、記録等貴重な資料を収集・保存・展示して当時の真情を後世に正しく伝え世界恒久の平和に寄与するものです。

知覧は、昭和16年、大刀洗陸軍飛行学校知覧分教所が開校、少年飛行兵、学徒出陣の特別操縦見習士官らが操縦訓練を重ねていましたが戦況が緊迫し険悪となり遂に昭和20年本土最南端の陸軍特攻基地となり、20歳前後の若い隊員達が満州・日本内地から集結しては、家族・国の将来を思いながら出撃した地です。

沖縄戦で特攻戦死された1,036名の隊員は、知覧基地を主軸として万世・都城基地から、第8飛行師団は台湾各基地、義烈空挺隊は健軍（熊本）基地から出撃しています。

この地が特攻隊の出撃基地であったことから、沖縄戦の特攻作戦で戦死された隊員の当時の真の姿・遺品・記録を後世に残し、この史実を多くの方に知っていただき、特攻をとおして戦争のむなしさ、平和の大切さ・ありがたさ、命の尊さを訴え、後世に正しく語り継ぎ恒久の平和を祈念することが基地のあった住民の責務であろうと、特攻基地跡の一角に知覧特攻平和会館（昭和50年から昭和61年は知覧特攻遺品館）を建設しました。

陸軍四式戦闘機「疾風（はやて）」（キー84甲）

国を思い、父母を思い、永遠の平和を願いながら勇士たちは――。

飛行帽　飛行時計　双眼鏡　ハチマキ　レシーバー　人形

●若き特攻隊員の遺影コーナー

●隊員の遺書・絶筆

●出撃から突撃（特攻勇士）

●戦史資料室

出撃前子犬と遊ぶ特攻隊の若桜
「提供・朝日新聞社」

寄せ書きを書く隊員

出撃前夜（うでずもう）

出撃20分前の腹ごしらえ

別れの盃

出撃を見送る女学生

◆知覧特攻平和会館建設に至った経緯や館の目的等について

(1)背景（飛行学校から特攻基地へ）

大東亜戦争（戦後は太平洋戦争ともいう。）が勃発した直後の昭和 16（1941）年福岡の大刀洗陸軍飛行学校の知覧分教所が開校され，静かなたたずまいの城下町は一変して爆音に明け暮れるまちとなった。

その後，戦局は急速に最悪の事態を迎え，昭和 20（1945）年春には，遂に本土最南端の陸軍特攻基地となり，20 歳前後の若い隊員達が，日本各地から集結しては，家族を想い・国の将来を想って，出撃していった。

出撃のとき，特攻隊員の食事の世話・洗濯・繕い物や兵舎の清掃など身の回りの世話をした高等女学校の生徒さんや地元の方々によると，「必死」，必ず死ぬことの分かった特攻隊員を見送るとき，筆舌に尽くしがたい気持ちだったと言う。

(2)目的等（世界恒久平和への取組）

特攻隊員は，若い人で 17 歳，今の高校 2 年生ぐらいの年で，全隊員の平均年齢は２１．６歳であった。彼らの死を覚悟して過した短い日々の中で書かれた手紙や遺書には，愛する人への愛や感謝の心，思いやりが詰まっており，これらの資料を含めて知覧へ昭和２５年頃から色々な資料が寄せられるようになる。

このようなことから，旧知覧町及び合併後の南九州市においては，沖縄戦の特攻作戦で戦死された隊員の慰霊に努めるとともに，当時の真の姿を示す，遺品や記録を後世に残すことによって，この史実を多くの方々に知っていただくなど，人類史上類をみない特攻作戦をとおして，戦争のむなしさ，平和の大切さ・ありがたさ，命の尊さを訴え，そして後世に正しく語り継ぎ恒久の平和を祈念することが基地のあった住民の責務であろうとの認識のもと，知覧特攻平和会館（昭和 50(1975)年から昭和 61（1986）年までは，知覧特攻遺品館）を建設するとともに，「平和を語り継ぐ都市」を宣言して平和への決意を示している。

(3)建設の経緯について

日本経済も安定成長期にはいった昭和 40 年代に，少飛会・特操会など特攻関係者から「特攻銅像の建立」と「遺品館」建設の声が続出したことから，全国の特攻関係者や一般有志の方々に募金を呼びかけて浄財による建設を計画し，広く募金活動を展開したが，「特攻銅像」については，知覧特攻慰霊顕彰会により有志による浄財で建立されたものの，「遺品館」については，第一次オイルショックに直面し計画が頓挫した。

しかしながら，昭和 49 年に運動公園の休憩施設として過疎対策事業債を利用して「特攻遺品館」を建設することを決定し，昭和 50 年には完成を見たところである。

その後も全国各地から訪れる人が多くなり，往時の痛ましくも悲しい事実に大きな反響が寄せられ，展示資料も多くなり手狭になってきたことから昭和６０年から６１年度までの２年間で，起債事業の特別対策事業を活用して，名称も現在の知覧特攻平和会館と改称し，現在の場所に建設した。

◆館の運営について

（1）入館数の実績

◆別紙のとおり

◆入館料

個人　　大人５００円　　小人３００円

団体　　大人４００円　　小人２４０円

団体（３０人以上の団体及び修学旅行等１人につき）

◇ミュージアム知覧との共通券

個人　　大人６００円　　小人４００円

（2）運　営　形　態

☆職員数と職員の身分について

南九州市（知覧特攻平和会館）

館長兼室長　　１人

管理係長　　１人

管理係　　１人

世界記憶遺産推進係長　　１人

世界記憶遺産推進係　　１人

|

知覧特攻平和会館管理組合 ⇨ 業務委託（館内案内業務及びクーポン請求）

理事会（組合長・副組合長・理事６人・顧問１人）

|――――監事（２人）

事務局（１２人）

事務局長　　１人（市職員兼）

事務局職員　　４人（市職員兼）

館内案内人　　５人（参事）

専門員　　１人

庶務係　　１人（主事）

○窓口受付業務（受付，入館券販売，遺失物保管等）　１人～２人常駐（民間委託）

○音声ガイド機貸出　　１人（管理組合が雇用；数名で交代勤務）

○休日案内補助　　１人（シルバー委託；２名で交代勤務）

○平日事務補助　　１人（非常勤嘱託）

5.　展示・解説等

（1）ありのままの事実の展示と解説について

昭和 16(1941)年福岡の大刀洗陸軍飛行学校の知覧分教所が開校され，静かなたたずまいの城下町は一変して爆音に明け暮れるまちとなった。その後戦局は急速に最悪の事態を迎え，昭和 20(1945)年春には，本土最南端の陸軍特攻基地となった。20 歳前後の若い隊員達が，日本各地から集結しては，家族を想い・国の将来を想って，出撃していった。出撃のとき，特攻隊員の食事の世話・洗濯・繕い物や兵舎の清掃など身の回りの世話をした高等女学校の生徒さんや地元の方々が，「必死」，必ず死ぬことの分かった特攻隊員を見送るとき，筆舌に尽くしがたい気持ちだったと言う。

もう二度とこのような悲惨な体験はしたくないと，この地が特攻隊の出撃基地であったことから，沖縄戦の特攻作戦で戦死された隊員の慰霊に努め，当時の真の姿・遺品・記録を後世に残し，この史実を多くの方に知っていただき，特攻をとおして戦争のむなしさ，平和の大切さ・ありがたさ，命の尊さを訴え，そして後世に正しく語り継ぎ恒久の平和を祈念することが基地のあった住民の責務であろうと，知覧特攻平和会館（昭和 50(1975)年から昭和 61(1986)年までは，知覧特攻遺品館）を建設するとともに，「平和を語り継ぐ都市」を宣言して平和への決意を示している。

また，隣接する知覧特攻平和観音堂では，昭和 30(1955)年から毎年，知覧特攻基地戦没者慰霊祭が厳粛に挙行されている。

知覧特攻平和会館での平和学習は，館内案内人（語り部）による講話及び特攻隊員たちの遺書・手紙などの閲覧を通じ，平和の大切さ・ありがたさ，命の尊さを学習することができる。当時の様子を知る方を中心に，5人の館内案内人が特攻の歴史背景と特攻隊員の遺書・手紙等の特色について約 30 分間解説をしている。

講話以外の学習としては，遺品室における特攻隊員の遺影，遺書，手紙などの閲覧，当時使用された戦闘機(一式戦闘機「隼」（模型），四式戦闘機「疾風」と海から引き揚げた零式艦上戦闘機「零戦」（実物））等の実物資料の見学，**特攻隊員検索システム**（陸・海軍特攻戦死者を検索できる）4台では，隊員の出身や氏名の検索，歴史が生んだ特攻のことや特攻を支えた人々のことを学習できる。**特攻資料解説システム**（日本語・英語)5 台では，約 250 点の遺書・手紙，遺詠，絶筆や遺筆を現代語と並列して学習できる。**タブレット型音声ガイドシステム**（日本語・英語・中国語・韓国語，約50 分〔有料200 円／台〕）100 台では，34項目の隊員のエピソードや当時の戦闘機等の説明が聴ける。さらに隣接して建てられている三角兵舎（復元）の見学，知覧特攻平和観音堂の参拝(平和セレモニーも行うことができる。)もできる。このように，本物(真実)を展示し当時のありのままを来館者に訴えている。